

(端裏書)

「大九右衛門様 末彦右衛門
貴下内用分」

当月^者目出度奉存候、然^者
御目見江之義急之内被

仰出候旨、右之外献上物之義

先規ハ別触中より

鰹節二連ツヽ哉と被察申候

右かつを御引替^ニ相成

可申様被仰渡候^而其御含

^{ニ而}貴家様より後藤家

其外御手筋之御方々へも

御沙汰被成度可然様

奉存候、引替代之義ハ

追^而御知らセ可申上候間

左様御心得可被成候

右之段得貴意申上度

余ハ貴顔之上と申留候

早々以上

六月朔日 当かたへ

尚々

鰹節より外^ニ品之替り

申分も御座候ハヽ急々

御知らせ可被下候、以上